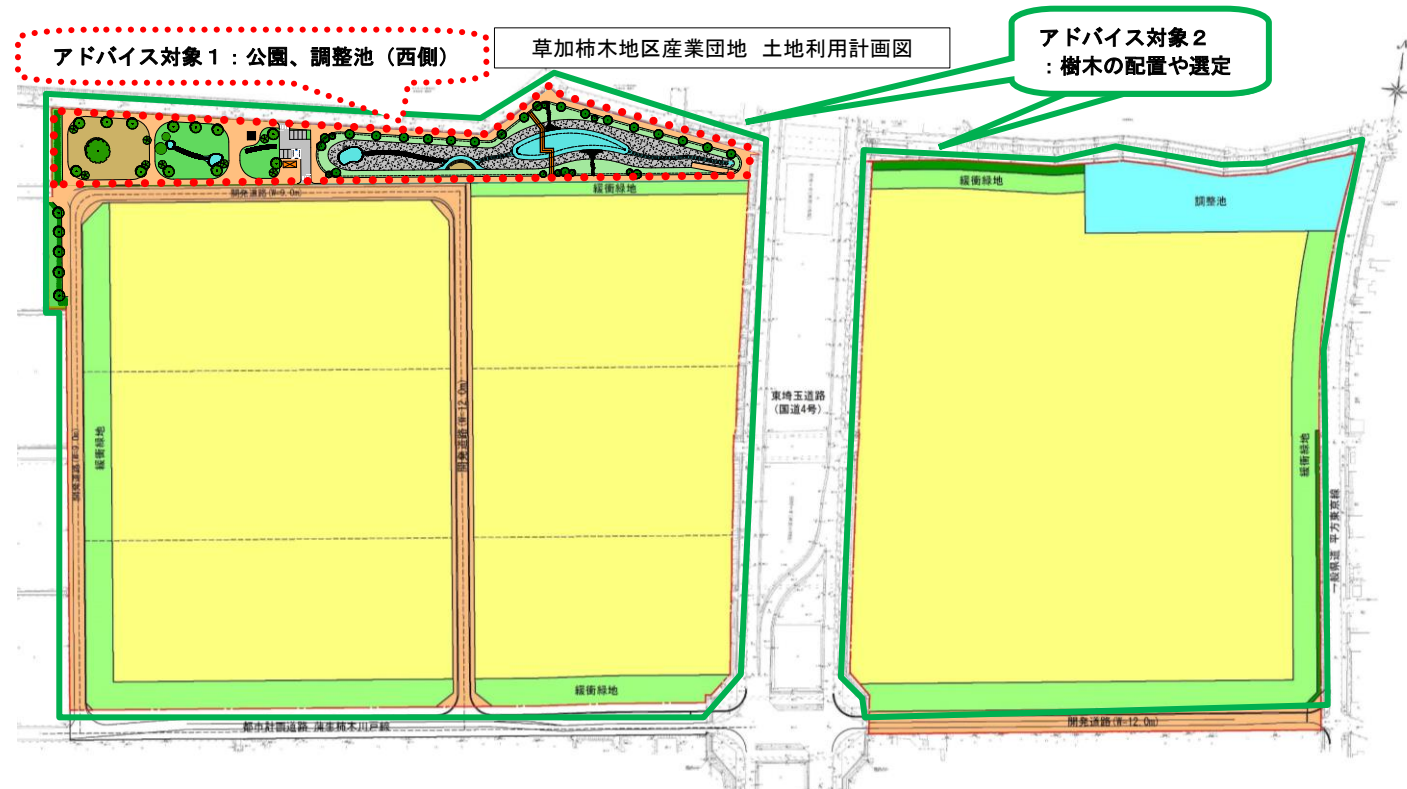


草加柿木地区産業団地実施設計業務委託

○アドバイス主旨

- 公園や調整池は地域の中での位置づけを意識し、設計することが望ましい。
- 公園や調整池は地域住民や工場勤務者などに普段から利用されるように工夫をするとよい。
- 周辺道路からのアイストップに配慮し、公園等の場所が一目見てわかる工夫をするとよい。
- 公園や調整池の水辺空間は、親水性に配慮するよう一定の水量を確保することが望ましい。
- 水辺空間や緩衝緑地に配置する樹木は清潔感や安心感を意識して選定すると良い。



1 公園、調整池に関するアドバイス



(1) 地域の中での位置づけを意識し、設計することが望ましい

- ①公園や調整池に配置する各施設は利用者の動線や利用形態などを踏まえ、設計することが望ましい。
- ②トイレなどは豪雨時の一時避難場所とするなど、防災の観点を取り入れるとよい。
- ③地域が連携する仕組みづくりを進め、普段から利用される工夫をするとよい。

(2) 利用者を招く工夫をするとよい

- ①公園、調整池は植栽やせせらぎ水路でつなげるなど、連続性を確保し、すっきりしたイメージとなるよう整備することが望ましい。
- ②周辺から公園等へ招く仕掛けとして、周辺道路との交点には、シンボルツリーなどアイストップとなるものを配置するとよい。夜間ライトアップにより防犯効果も期待できる。
- ③水辺空間の池の形状や施設、植栽の配置を工夫し、その場所に行きたくくなるような仕掛けを施すなど、人の利用に調和させた計画とすることが望ましい。
- ④周辺道路からアイストップとなる位置にトイレを計画する場合、位置や角度、デザインに配慮することが望ましい。
- ⑤周辺道路など高く眺望性がある箇所（特に国道4号と接する部分）には、たまりスペースを設置し、眺望空間を確保するとともに、人が集まる部分なので、アクセス性を考慮し、入口を整備することが望ましい。
- ⑥池を跨ぐ橋は、眺望点からの見え方や利用者の動線を意識し、デザインや設置方向を計画することが望ましい。
- ⑦公園内に設置する街路灯は、主役となる施設（樹木など）に配慮し、高さを抑え、目立たないような工夫をするとよい。また、ポールの色は周辺環境や施設の素材との調和を考慮して選定するとよい。

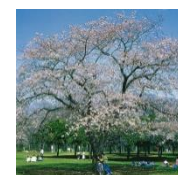
(3) 親水空間では一定水量を確保するとよい

- ①水辺空間を計画する場合は、一定水量を確保し、親水性に配慮することが望ましい。
- ②水量確保にあたりポンプ施設を設置する場合には、埋設型にするなど、視覚のインパクトにならないよう配慮するとよい。

2 樹木の選定や配置に関するアドバイス

(1) 樹木の選定や配置は清潔感や安心感を意識するとよい

- ①同じような種類の樹木を連続的に配置すると、だらだらしたイメージとなるので、公園と調整池では樹種を分けて選定するとよい。
- ②樹木は、1本で美しいもの（例：アキニレ、ソメイヨシノ）、列で美しいもの（例：メタセコイア）、群で美しいもの（例：梅、ユキヤナギ）、それぞれ特性があるので、メリハリをつけて配置するとともに、全体のイメージが暗くうっそうとならないよう、清潔感や安心感を意識し、自然樹形がきれいなものや維持管理がしやすいものを配置するとよい。
- ③水辺に植える樹木は従来水辺にある樹種を選定するとよい。（例：カツラ、ミズキ）



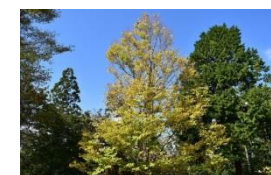
1本で美しい樹木
(例：ソメイヨシノ)



列で美しい樹木
(例：メタセコイア)



群で美しい樹木
(例：梅)



水辺にある樹木
(例：カツラ)

【参考意見】

- 1 公園等の緑地管理にあたり、地域住民や学校、立地企業と連携した仕組みを作ってはどうか。
- 2 分譲地に立地する企業に対し、建物の色彩や意匠、敷地の緑化の量や質について、周辺環境に配慮するよう指導することが望ましい。
- 3 ウォーキング(ジョギング)コースを作る場合には、舗装材は利用用途に配慮し、舗装面の色は水辺や樹木になじむよう配慮するとよい。
- 4 埼玉県公共事業景観形成指針に則り、ベンチ等の施設に木材を利用する際には、県産木材の利用に努めること。
- 5 国道4号との境界の法面については、道路管理者との調整や植栽の工夫等を行い、景観に配慮することが望ましい。